

## 「青石畳」

島根県松江市

島根半島は、出雲の一番はじめの神が、出雲の国の小さい事を嘆き、新羅(朝鮮半島の古代王国)と越の国(新潟地方)から国土を引き寄せて造ったとされている。その東端の美保関は、古くは大いなる聖なる岬を意味する「御大之御前」(みほのみさき)と呼ばれていた。

青石畳は、美保神社の門前から仏谷寺までの約260mに渡って続いている道で、かつてはこの通りが本通りであり生活道路であった。工事費は、当地に寄港して商いをした船頭や沖船頭の寄進をもとに、通りに面した地元の回船問屋の人々の寄進により、天保から弘化年間にかけて初期工事が行われたようで、大正まで断続的に行われた。

青石畳の起点となっている美保神社は、8世紀に編纂された「出雲国風土記」にも記載されている古社である。現在の本殿は、文化10年(1813)の造営で、大社造りを2棟並べて装束の間でつないだ「美保造り」と呼ばれる独特の様式で、国の重要文化財に指定されている。事代主神(彘びす様)を祀っており、全国各地にある三千余の彘びす社の総本社として、特に水産・海運に携わる人々から広く敬い親しまれてきた。

また仏谷寺は、もとは三明院と呼ばれ、後鳥羽上皇、後醍醐天皇が隠岐へ入る際に風待ちのために行在所としたといわれている。その後衰退し、天正年間(1573~92)に仏谷寺として再興した。



青石畳み(本通り)

### みどころ



- 美保関灯台：明治31年(1898)に建てられた山陰最古の石造りの灯台で、高さ14m、水面からの高さは87m。初点灯された当時のままの白色円筒形造りは、平成10年に「世界の歴史的灯台100選」にも選定。灯台守の宿舎だった赤い屋根の建物は、「灯台ビュッフェ」として人気がある。
- 関の五本松公園：美保関漁港の西の丘陵の標高70m~80mの小高い丘にあり、かつて船が目印にしたという5本の松。そのうちの1本が大名行列の邪魔になると切られてしまい、民謡「関の五本松節」の由来になったという。4月下旬~5月上旬は約5000本のツツジが満開になる。